

# 「子供の森」計画

in タイ



「子供の森」計画積極展開地域：チェンマイ、チェンライ、ランブーン、コンケン、スリン、アユタヤ、チャイナット



## 2012年の活動と2013年の展望

子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。1992年から活動を続けているタイでは、「子供の森」計画を子どもたちだけでなく、学校全体、村全体の取り組みに展開するよう力を入れています。地域に根ざした活動とするため、地域の歴史や昔ながらの知恵を大切にしながら、地域を巻き込みながら活動を進めています。特に環境教育活動が重要だと考えており、森の植物調査や、果樹や小動物など森から得られる恵みを村人たちと共に学ぶ機会をつくるなどしています。そしてタイでは近年の世界情勢を鑑み、植林だけでなく

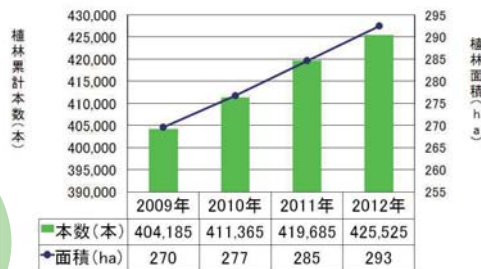
「農」の大切さも子どもたちに教えています。有機農業を学ぶことにより、身近な地域で起こっている自然に関する問題と自分たち自身とを連動して考えられるようになり、学んだ知識や経験を活かして自然を守り育みながら地域の発展にも貢献できる人づくりとなると考えています。これからも引き続きご理解・ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



タイ担当 春日智実

2012年植林実績：植林 **5,840** 本・面積 **7.83** ha  
「子供の森」計画参加学校数：182 校 (1992年からの累計値)

## 2012年までの植林実績



## タイ

- ◆人口：64.076百万人 (2012年IMF推計値 日本は127.896百万人)
- ◆面積：513,120km<sup>2</sup> (総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km<sup>2</sup>)
- ◆一人当たりGDP：5,394.714US\$ (2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$)
- ◆森林率：37% (2010年FAO公表値 日本は69%)

タイの活動を支援して下さる方を募集しています。ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

**ベルマークや書き損じはがきも募集しています。**  
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。事務局までお送りください。

「子供の森」計画情報提供サイト  
[www.kodomonono-mori.info](http://www.kodomonono-mori.info)

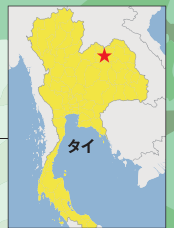


事務局



〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12  
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111  
<http://www.oisca.org/>

E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)



## 木を植えることは、自分の幸せを作ること!

バーンノングループ学校は2006年の活動開始から今まで多くの木を植えて育ててきており、学校の敷地内には0.8haの森が広がっています。その森の中では、村人が好んで食べる赤アリの卵（赤アリは木の上に巣を作るアリで、その卵にはたんぱく質が多く含まれ、タイでは高価な食材となります）や雨季には様々な種類のキノコが採れるようになってきました。植えた木々をしっかりと管理し、森を育むことで、このように様々な恵みが村にもたらされ、



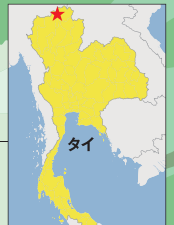
6年前に植えた木が森を形成している

村人も「子供の森」計画への理解を深めますます積極的に協力するようになってきました。さらに、近くの学校は森がないため、この学校の森をキャンプ場として

借り、環境や森のことについて子どもたちに教えています。先生や子どもたちは、自分たちが育ててきた森がこうして村人や近隣の学校の子どもの役に立てることを誇りに思っています。「毎年少しずつ木を植え、毎日少しずつ育てる活動を続けてきたことが、自分たちの幸せを作ることにつながっている」と子どもたちはこれからも継続的な活動への意欲をみせています。



距離を測りながら植林の穴を作っています



## ふるさとに水を取り戻したい、山岳民族の学校で森作り

バーンノングパム学校では、アカ族やラフ族などの山岳民族の子どもたちが通うタイ北部にある学校です。この地域は昔から貧しい家庭が多く、畑を作るために山を切り拓き、畑の土が劣化すると放置することがくり返されてきました。その結果1990年代になると、山に木がなくなり川の水は枯れ、村では水不足に直面、貧困が加速してしまいました。そのため、オイスカは1996年から同校で「子供の森」計画を始め、毎年植林活動を進めてきました。現在では、



今年は200本の苗を植えました

村人も自分の子どもたちと一緒に植林活動に参加するようになり、植林に対する村全体の意識が以前より高まっています。そして今、学校ではレモングラス、クミンなど現

地に昔からあるハーブの栽培も行っています。レモングラスは蚊よけとして、クミンは虫に刺されたときの痛みを和らげる効果があるなど、その効能や使い方も子どもたちに教えています。子どもたちにとって、この活動は日常生活と自然との関わりをさらに深く学ぶ機会となっており、森づくりと併せて力を入れて取り組んでいます。



畑でハーブを植える子どもたち



学校のハーブ畑の前で

## TOPICS

### 自然をつかったアート

タイ東部のスリン県には、土や自然にあるものを使って芸術作品を作り出す活動をしているグループがあり、「子供の森」計画のコーディネーターもこの活動に参加しています。2012年に行われた活動では、異なる職業につき約40人のメンバーが参加し、チームに分かれて様々な作品を作りました。人が自然の価値に気付き、自然の芸術作品を作りだすこの活動は子どもの情操教育にもつながると考えたコーディネーターは、今後「子供の森」計画の活動の中にも取り入れていきたいと意欲を見せています。



「小さな魚を食べる大きな魚」生態系に関する作品